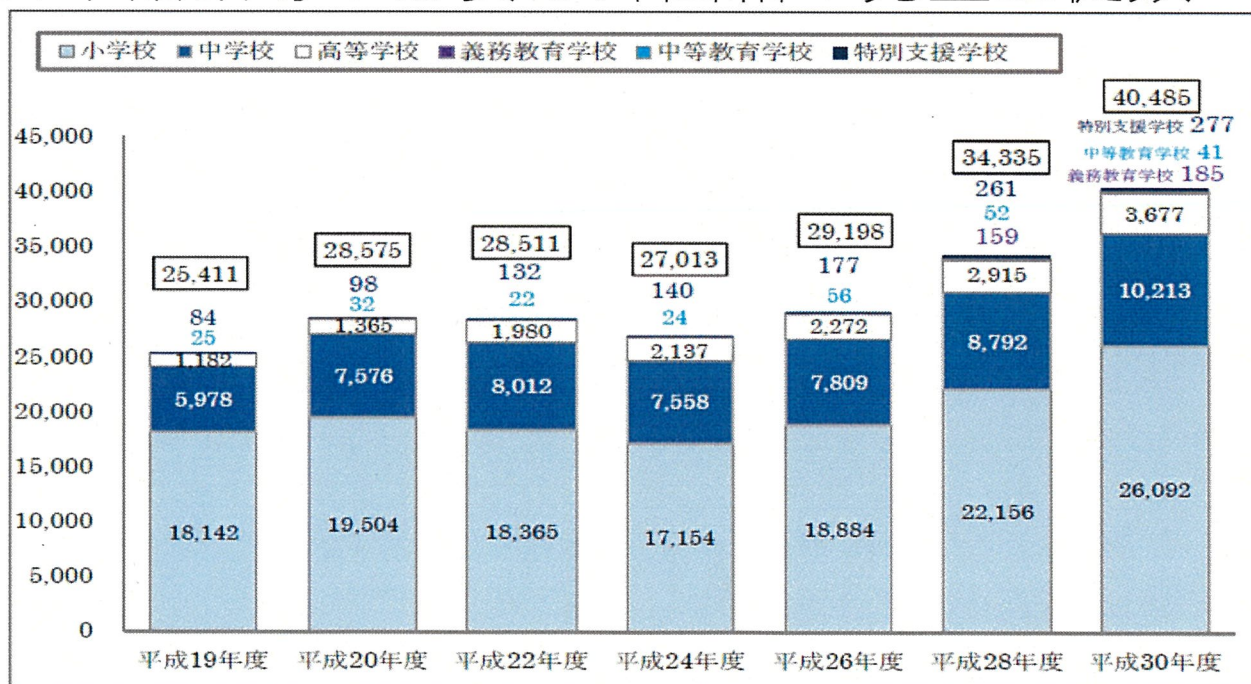


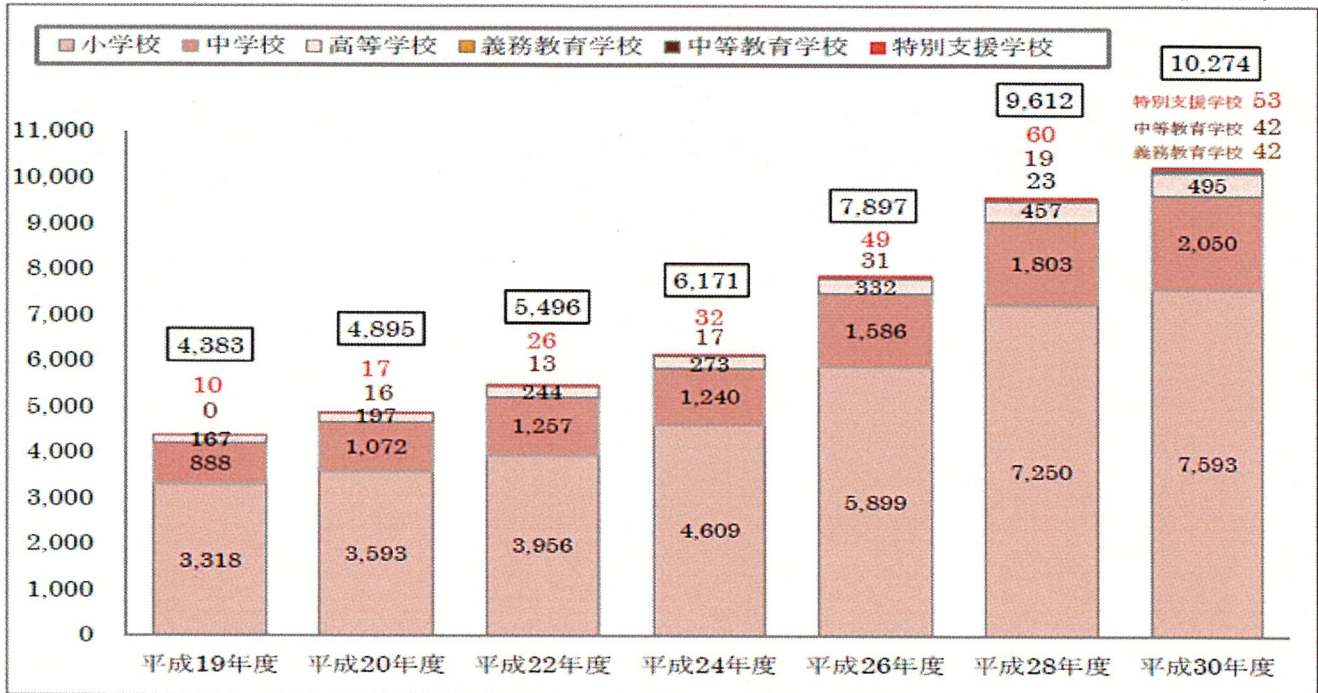
# 趣旨説明

東京学芸大学国際教育センター  
菅原 雅枝  
masaes@u-gakugei.ac.jp

## 日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数



# 日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒数



## 外国人児童生徒等教育の動向

- I 学校における外国人児童生徒等に対する教育支援の充実方策について (報告) (2016)
  1. 外国人児童生徒等教育の指導体制の整備・充実
  2. 外国人児童生徒等教育に携わる教員・支援員等の養成・確保
  3. 外国人児童生徒等教育における指導内容の改善・充実
  4. 外国人の子供等の就学・進学・就職の促進
  - ⇒ 教員研修の必要性は認識されつつある
- II 公益社団法人日本語教育学会「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」…文部科学省委託事業
  - ⇒ 求められる資質能力の明確化
- III 日本語教育推進法 (2019)
  - ⇒ 日本語教育の機会確保は国の責務。  
子どもには生活の日本語とともに教科指導の充実を。

この後の講義で！

# 外国人児童生徒等教育を担う教員の必要性

1. 「特別の教育課程による日本語指導」の導入
  2. 学習指導要領【総則 第4の2の(2)】
    - イ 日本語の習得に困難のある児童については、個々の児童の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。特に、通級による日本語指導については、教師間の連携に努め、指導についての計画を個別に作成することなどにより、効果的な指導に努めるものとする。
- ⇒ 日本語力の測定、指導計画の作成、指導…ができる人材  
通常学級での支援等について情報が提供できる人材

## 現場の課題

- 指導を必要とする子どもの多様化
- 支援員頼みの現状
- 担当者のひんばんな交代
  - ⇒ 指導資料の蓄積／知識やスキル向上・・・が困難
- 一般教員と担当教員、学校と支援団体の連携が困難
- 研修機会の少なさ

本日は、研修に焦点を当て、①研修でどのような力を育てるのか、②具体的にどのように進めるのかを考えます。後半は、その中でも「初めて関わる」教員の支援について考えます。

# 本日の流れ

## 1. 国際教育センターJSL研修の報告

⇒ 研修会実施の中で見えてきた課題と、課題に対応するためのプログラム作りの過程を事例として紹介

## 2. 外国人児童生徒等教育を担う教員の資質・能力

⇒ 研修を考えるにあたって必須の「目標とする力」について最新情報を

## 3. 「初めてかかわる教員」を支える取り組みの報告

- ① 教育委員会で 横浜市教育委員会
- ② 教員の研究会で 東京都日本語教育研究会
- ③ 学校で 藤沢市立高倉中学校